

『東アジア近代史』第22号 2018年6月

《特集》第一次世界大戦下の東アジアと世界

大会特集の趣旨と概要 斎藤聖二

第一次世界大戦期の勝田主計—正貨問題・「日支親善」・戦後構想 — 久保田裕次

中国の第一次世界大戦参戦—対ドイツ抗議・断交を中心に — 川島真

第一次世界大戦期の華工送出と威海衛統治問題 — 古泉達矢

第一次世界大戦下のヨーロッパから見た東アジア—ドイツが注目した連合国の背面 — 大井知範

米国の参戦が東アジアにもたらしたもの—米外交のフラストレーションと旧秩序の解体 — 中谷直司

コメント 千葉功

《特別寄稿》

台湾史研究と公文書 — 呉密察／新田龍希訳・解題

《独立論文》

上海租界をめぐる日本海軍の対英米政策—一九三七～一九四〇年 — 小磯隆広

《研究動向》

日清戦争開戦前の日本による清朝対外政策認識—『蹇蹇録』の史料性の検討 — 宮古文尋

《活動報告》

《予告》二〇一八年度第二三回研究大会

『東アジア近代史』 ゆまに書房 (TEL03-5296-0491) 発売 (本体価格 2,500 円)